

平成18年9月13日（水）

○議長（上田順康君）順番22、23番 富岡君。

〔23番（富岡清彦君）登壇〕

○23番（富岡清彦君）一般質問を行います。

私は、市政の主人公は市民であると、この立場から、3項目について質問を行います。

1項目めの質問は、合併によって財政は健全化の方向に向かっているのか、この問題について伺います。

行政は、合併の最大の目的は、財政の健全化であると再三説明してきました。しかし、合併初年度の2006年度予算編成で、予算が不足する状況に至ったと聞きます。これは一体どういうことか。全く理解できません。このことから、本年11月には、本格的な新市行政改革大綱と集中改革プランを策定し、市民の皆さんに理解と協力をいただくとのことですが、これでは合併についての行政の説明が偽りであったのかと、疑いを持たざるを得ません。

合併をすれば、行政サービスは維持できる、市民負担は増やさなくても、財政は健全化できると行政は説明をしてきました。私は、合併1年目からなぜ財政難に至ったのか、何が原因なのか、このことを明らかにすることなしに、市民の理解は得られないと考えます。

そこで、質問の第一は、合併1年目から財政難に至った原因について、具体的で明快な答弁を求めます。質問の第二は、合併協議会に提出された財政シミュレーションと、2006年度予算との違いについて、具体的に説明を求めます。

2項目めの質問は、国道371号バイパス計画について、地域住民の不安な点を伺います。まず申し上げておきます。私は、国道371号バイパスに反対をするものではありません。一日

も早い完成を願う一人であります。そのための協力を惜しむものではありません。

そこで、質問の第一は、国道371号バイパス工事が来年度、御幸辻地域で始まると聞きます。地域住民の最大の不安は、御幸辻区が、バイパスができることで分断されるのではないかと、この点です。具体的には、国道371号バイパスは4車線であることから、現在の市道がバイパスによって遮断され、従来のように近所に行くことさえ容易でなくなるのではという心配です。また、御幸辻駅が利用しにくくなるのではという不安の声を聞きます。国道371号バイパス、御幸辻駅周辺の計画について、その概要を伺います。

質問の第二は、関係住民に住民説明会を開催する計画があるのか伺います。

3項目めの質問は、高野口出張所の存続について質問します。

質問の第一は、日本共産党高野口支部が、今年5月に実施をした、「まちづくりアンケート」で、高野口出張所の存続を求める声が多く寄せられました。私は個人的には、出張所の存続を求めることは正論であるというふうに考えます。存続について、行政の姿勢を伺います。

質問の第二は、行政サービスの向上と財政を考え提案したいと思います。大阪狭山市の狭山出張所、富田林市の金剛出張所のような、各部のエキスパートを配置をして、数人の職員で、ほとんどの市民の要望に対応している出張所を視察してきましたけれども、こういう出張所を実行できないかを伺いまして、1回目の質問を終わります。

○議長（上田順康君）23番 富岡君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 富岡議員のご質問にお答えをいたします。

橋本市と高野口町が3月1日に合併し、はや6カ月がたちました。本年6月には、合併後初めてとなる橋本市の年間予算を編成し、6月市議会定例会において議決をいただき、本格的に新市のスタートを切ったところにあります。

ところで、合併の主な目的は、合併前に住民の皆さまにご説明してきたとおり、行政運営の効率化と財政基盤の強化を図ることであり、そのことにより、公共サービスの提供を維持・充実していくことにあります。

その背景には、国家財政や県財政が大変厳しい状況にございまして、累積債務の増大などによるものでございますが、以前のように地方自治体に対し、手厚い支援が事実上困難な状態となってきたこと、また、ほとんどの地方自治体にとっては、国の三位一体改革により、補助金や地方交付税の削減など、歳入面において財源確保が厳しい状況になる中、歳出面においては、急激に進展する少子高齢化に加え、ますます高度化、多様化する住民ニーズの増大など、地方自治体の責務となる公共サービスの維持・充実が困難となり、単独での自治体運営が、極めて厳しい局面に立たされてきたことにあります。

このような状況は、旧橋本市でも、旧高野口町でも同様でございまして、合併以前から、手法は違えどもそれぞれの行財政改革に取り組んできた経緯がございます。しかしながら、合併をしないで単独で経費の削減には限界がございますし、さらに削減をしようとした場合、行政サービスの低下や住民の負担増につながることから、両市町が合併し、行政運営の効率化と財政基盤の強化を図ることにいた

しました。

このような状況を踏まえ、本年6月に編成した平成18年度本予算は、財政調整基金などの基金繰入金として約21億円を計上するなど、大変厳しい財政状況を反映したものとなっております。

この要因といたしましては、6月に編成した本予算は、毎年3月議会に上程する当初予算に匹敵するもので、歳入面については、税収の伸び悩みや三位一体改革による補助金、交付税削減の影響があるほか、各歳入項目とも、当初は予算計上額を抑え、その調整を基金繰入金で行っているためであります。また、歳出面では、旧市町の継続事業や、市民病院への繰入金、ごみ焼却施設の建設負担金及び周辺整備事業費などの支出増が要因と考えられるほか、合併による効果も、合併後すぐ反映されないのも一つの要因でなかろうかと考えております。

しかし、財政状況の悪化は、決して合併1年目から始まったわけではございません。両市町とも、合併以前から厳しい財政状況にあり、そのため、両市町とも行財政改革に取り組んできた経緯もありますし、また、合併したからといって、即座に財政が好転することもございません。かといって、合併して何も策を講じなければ、合併の本来の目的である行政運営の効率化と財政基盤の強化を図ることは、決してできないと考えます。

次に、合併協議会が作成した財政シミュレーションと、平成18年度本予算をベースにした財政シミュレーションの大きな違いはとのおただしでございまして、まず、歳入では地方税の減収であります。これは、本予算においては、収入見込額の満額を予算化していないこと、また、合併協議会では、税源移譲分をすべて地方税として算出しておりますが、平成18年予算では、実際交付されている地方

譲与税としてカウントしていることが原因であります。また、国庫支出金及び県支出金、並びに地方債でも大きな差が生じております。これは、三位一体改革の影響も多少ありますが、多くは歳出における投資的経費の減少によるものと考えます。

続いて歳出面では、扶助費と物件費で大きな差が生じています。特に物件費については、予算額のほうが約9億円多く、今後、行財政改革を実施する上では、物件費の削減が大きな焦点になり、課題にもなります。

本市といたしましては、これらの分析をもとに、現在策定中の新市行政改革大綱と、改革の具体的な取り組みを示した集中改革プランに反映し、改革の早期実現のため取り組んでまいりますので、ご理解賜りますよう、お願いをいたします。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたします。

○議長（上田順康君）企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）次に、高野口出張所の存続についてですが、旧高野口町役場につきましては、橋本市・高野口町合併協議会において、合併後1年をめどに廃止し、それまでの間は、新市の出張所とすることが確認されています。また、新市まちづくり計画においては、合併後1年間をめどに出張所を廃止することとなる高野口町役場跡は、著しく住民サービスが低下しないように、地区公民館に福祉関連機能を兼ね備えた複合施設として整備し、地域住民の文化、福祉向上のための施設として活用するとともに、あわせて証明書発行の自動交付機の設置や、住民の利便性に配慮した行政サービスの向上に努めますとしています。

高野口出張所をいつまで設置するかについては、跡地整備の進捗状況もあり、現時点で

は決定しておりませんが、合併協議会での確認事項と新市まちづくり計画に基づき、今後進めてまいりたいと考えております。

次に、職員配置については、現在出張所の跡地整備について、関係部課長で構成される庁内検討委員会において協議を進めており、施設運営に必要な職員の配置を検討してまいりたいと考えております。

○議長（上田順康君）建設部長。

〔建設部長（坂本信良君）登壇〕

○建設部長（坂本信良君）国道371号バイパスにより、御幸辻区が分断されることについてでございますが、御幸辻駅周辺付近におけるバイパス計画は、駅の西側を南海高野線と平行して、車道4車線と両側歩道の幅員25mの道路を整備するものであります。

現在、市道御幸辻三石線と南海高野線の林間田園都市5号踏切、御幸辻駅前交差点等について、関係機関と協議をしております。また、バイパス整備により分断される市道等につきましては、機能回復をどのようにするかを現在検討しているところです。

工事の施行につきましては、平成19年度より、県道山田御幸辻停車場線から北側を予定しております。

関係住民への説明会につきましては、工事着手前には付近住民に説明会を催す予定であります。

国道371号バイパスは大阪府と和歌山県を結ぶ幹線道路として、橋本市の地域開発、産業活動に大きな役割を果たす重要な道路であり、今後とも事業主体の県に対し、早期完成に向け強く要望してまいりますので、議員各位のこれまでも増したお力添えをお願い申し上げます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君、再質問ありますか。

23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）まず、1項目めの、合併によって財政は健全化の方向に向かっているのか、これについて再質問いたします。

1年目から、まあ1年目でないと市長は言ってますけれども、財政難に至らしめた原因についてお尋ねをしているわけです。可能な限り具体的に、数字も示しながら、あるいは事業名等も示しながら答弁をいただきたいと思います。

この原因を明らかにすることなしに、財政の健全化というのは、私は不可能じゃないかというふうに思っています。このことを抜きにして、演壇でも申し上げましたけれども、一番言いたいことは、新市行政改革大綱であるとか、集中改革プランであるとか、こういうものをつくって、問題は住民サービスを後退させたり、市民に負担を強いると、こういうことについて納得いきません。

要するに、急速な財政難を招いた原因、これについて市民にわかりやすい答弁を求めます。もう市長結構です。市長は大きなことで言っていたらいいと思うので、総務部長、どなたか細かいことわかる人、答弁お願いします。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）富岡議員のご質問にお答えをいたします。

要因についての具体的なことということでございますので、まず歳入からご説明をさせていただきます。

まず、税収の伸び悩みが一つの要因でございます。国では景気のほうが上向きというふうに言われておりますけれども、地方都市までその影響は及んでいないというところがまず一点。

それから、法人市民税につきましては、やっぱり合併前はそれぞれ旧市、旧町でそれぞれカウントされていた事業所が、合併するこ

とによって事業所が一つになるということによりまして、法人市民税の均等割等が減少してくると。

それからもう一点、固定資産税の税収がかなり落ち込んでいます。これは、原因といたしましては、3年に一度の評価替えによって減少しておるわけでございます。これは、今までも3年に一回の評価替えというのはありませんけれども、新築家屋の増加によりまして、それが相殺されて、増加分と減少分が相殺されて目に見えてなかったと。ところが、今は新築家屋が少なくなっておりますので、固定資産の評価替えの分による減収分が表に出てきたということでございます。

それからもう一点、三位一体改革による補助金、交付税削減、それがやっぱり本市でも影響がございます。国の予算におきましては、4兆7,000億円の国庫補助金の削減、それから3兆円の税源移譲ということで、国のほう、示しておるんですけども、その差が1兆7,000億円あるわけでございます。地方自治体全体にとっては、削減による影響額というのがその1兆7,000億円になろうかと思えます。

それから、国のほうは、その削減分を地方交付税で見ていると、行政需要額の積算上に反映しているということでございますけれども、地方交付税の総額自体が、前年度と比べ5.9%削減されているわけでございますので、実質交付税措置をしておるからと言いますけれども、実際の交付税額には反映されていない。少なくとも減少しているということでございます。

それを一例で挙げますと、例えば公立保育所の運営費補助金。平成16年度から一般財源化されていたのでございますけれども、それは交付税措置ということになってますけれども、従来、国庫補助金で国から直接、市に対して約1億5,000万円、歳入として計上しておりま

した。地方交付税措置になりますと、1億3,900万円しかカウントされていない計算上になります。そこでも1,100万円の減額と。

それから、ただし、交付税措置ということでございますので、行政需要額のほうで算入されておるのが1億3,900万円でございますので、実際の交付額ということになりますと、約40%強ぐらいになりますので、五千四、五百万程度の歳入しか、交付税で言うたらその歳入しか入って来てないということになりますと、1億5,000万円もらっていたのが、五千四、五百万円しか入って来ていないと。実質1億円の減額になっているというような状況でございます。それが一つの一例。

それから、普通交付税でございますけれども、本来、病院の起債等、償還額が増加してまして、その分が、平成18年度でございますと、前年度と比べまして2億8,200万円増えているわけでございます。その分は確実に交付税として増えるべきでございます。また、病床数の増加も255床から300床に増えておりまして、それも2,640万円増える計算になりまして、病院だけでも3億840万円の増加が、本来ですと見込めるはずでございます。

それから、合併補正による交付税措置、これが8,800万円、その他、行政需要費の伸びも含めまして、約4億7,400万円が交付税として本来増えるべきものでありますけれども、実際の交付税額は2億6,800万円しか増えないというような実態が出ております。したがって、その分、交付税だけでも2億円が削減されているというような結果が出ております。これは歳入の主なものでございます。

次、歳出につきまして、ちょっとご説明をさせていただきますと、旧市町の継続事業というのが結構ございまして、平成18年度の本予算に計上しております旧市・旧町の継続事業で約9億4,650万円ございます。そのうち、

広域ごみの条件工事も若干含んでおりますけれども、継続事業だけで9億4,650万円があると。

それから、先ほど交付税関連でも言いましたけれども、市民病院の繰出金でございますけれども、平成18年度の本予算計上額が8億6,511万円で、平成17年度の決算と比べましたら、4億7,600万円増えているわけでございます。すべてそれらは一般財源ではございませんけれども、交付税措置もございますけれども、一般財源だけで言いますと約1億8,700万円ほど増加しておるといような状況でございます。

それから、広域ごみ処理施設建設負担金でございますけれども、平成17年度決算額につきましては、これは旧市・旧町合わせて、合算額でございますけれども、約2,200万円でございます。18年度は2億3,055万2,000円で、すべて一般財源でございますので、2億854万円の増加ということになります。それから、広域ごみの周辺整備の新規事業だけで2件、1億8,000万円ぐらいは増加しておるといようなことで、歳出も非常に増えているということが要因と考えられます。

以上でございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）かなり詳しく説明いただきました。一つは、国が悪いなというのも、聞いておりますと約2億円ほどあると。まあ、いろいろお金、出ていくところあるんだなという感じを持ちます。

そしたら、答弁が具体的であったので、財政シミュレーション、この合併協議会で示された財政シミュレーションですね、これ、苦労してつくられたと思うんですが、これと、昨日の14番議員ともう一方、衝撃的な、本年7月につくられた財政シミュレーションというのがありましたけれども、この違いについてお尋ねをいたします。

合併をした場合の財政収支表というのがあります。ここでは、18年度決算時点で取り崩し可能な基金残高というふうに書かれているんですけども、14億6,371万3,000円というふうに記されております。これだけ自由に使える基金というのは残せるんだというふうなシミュレーション、つくられておるわけですけども、これと実際はどういう見込みでしょうか。2006年度の決算時で、どの程度の基金が残るかお尋ねします。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）基金のお話でございますけれども、先ほど、市長も答弁した中にもあったわけでございますけれども、平成18年度本予算につきましては、例年の当初予算と同じように、歳入につきましては、最初から満額を計上しておるものではございません。ある程度留保財源を持って、歳入は抑えぎみ、それから歳出につきましてはやや多目ということになります。

したがって、合併協議会がつくった財政シミュレーションは、あくまで決算額をもとにした、過去の決算額をもとにした財政シミュレーションでありますし、今回の私どもの試算しておる数字につきましては、本予算をベースにしたシミュレーションでございますので、大きな差が生じてくるということになります。

本予算につきましては、当然、歳入を抑えぎみでございますので、その調整を何でおるかということになりますと、基金の繰入金で例年調整を行っております。最終決算でもって基金の取り崩しを減額するというようなことを、毎年そういうことで処理しておるわけでございます。したがって、最終的に18年度の決算を打ってみないと、基金の残高がどれぐらいになるかというのは、今のところ、ちょっと金額は出せないというこ

とになります。

以上でございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）この問題をいろいろ調査していて、割と大まかな予算を組んでるなということがわかったんですよ。当初予算で、入りについては少なく、市民税、交付税等。出るほうは大きくはしてないんですけども、できるだけ入りを抑えるという、そういう予算組ですよ。それが議会に出てきてるわけですよ。これ、ちょっと話、それてしまうんですが、一言言いたいので、これは本来の予算というのは、こういう組み方はだめだと思います。地方自治法でも、1年分の予算について、入りはこれだけですよ、そして出はこれだけです、歳出はこれだけです、ここに使いますというのを、正確な数字で議会に提案してくると。市民の代表である議会がそれをチェックするというのが筋だと思うんです。これはまだ時間かかるので、置いておきますが、これは一言指摘をしておきます。

さらに、今の答弁だったら、まだその14億円ですか、戻るかも戻らんかもわからんということやろ。だとすれば、もっとわかりやすい違い言います。それは、昨日の一般質問で、14番議員も取り上げておりましたけれども、本年7月に財政シミュレーションがつけられています。これは、16年度予算を立てた段階で、これは大変だということで、ある程度政治的につくった可能性もあります。理事あたりが、ちょっとこれつくってみいと。もっと政治的に言うたら、職員向けにつくったのかなとも思われる節、14番議員、首振ってますけど、節もあるんです。あるんですけども、何と何とこれ、3パターンつくってるんですが、4年後の数値を見ますと、4年後、つまり2010年度ですね。どうなるかと。1パターンでは106億円の累積赤字が出ると

いうシミュレーションですよ、皆さん。2つ目で累積赤字は55億円、そして3つ目のパターンで15億円の赤字が出るということですよ。

この合併した場合の財政シミュレーションの中で、財政収支、平成22年度はいくらになっているかと言えば、8億9,662万9,000円の基金が、自由に使える基金がまだ残りますという、こういう数字を出しているんですよ。これ、皆さん方は行政のプロなんですよ。市民の大切な税金を預かって仕事をしているんですよ。こんな数十億から100億も違うようなシミュレーションをつくって、一体どうするんですか。

（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

○23番（富岡清彦君）この違いについて教えてくださいよ。市民がわかるように。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）お答えさせていただきます。何点か指摘されておられるんですが、まず1点、予算上で歳入、歳出、歳入が甘くて歳出が厳しいのではないかというご指摘ですが、決してそのようなことはやっておりません。当然、17年度の決算も近々認定をいただくわけでございますけれども、17年度の普通会計ベースで申し上げますと、あくまでも決算認定いただいておりますが、収入だけで約250億円ございます。このうち、地方税につきましては28%、地方交付税につきましては26.2%、普通会計で占めますところの歳入で自主財源、依存財源につきましては54.2%という数字が出てきております。といいますのは、こういう数字というのは、非常に、我々財政担当としましては、敏感に対応せざるを得ないという状況でございます。これは、過去数年こういう数字で推移してきてございます。国の地方交付税改正、地方分権等で、国のほうで少しでもさわられますと、

私どもの橋本市でも、まともに影響を受けるということ、非常に危機感を持ってございます。その点が一点で、国の交付税、譲与税等々含めまして、橋本市の財政サイドでコントロールできない部分でございますので、結果的には留保財源的な見方もあろうかと思いますが、決して甘くは見ておらないということで、ご理解賜りたいと思います。

それから、先ほどから、きのうも私、18番議員の中でもご説明、ご答弁させていただいて、少しご注意も受けたんですが、今現在、財政シミュレーションにつきましては、なるほど財政課のほうで1案、2案、3案ということで、財政シミュレーションをつくってはございますが、これは、あくまでも今現在は、市内部的に試算ということで作成をしている段階でございます。その部分につきましては、今、塚本理事筆頭に行政改革に取り組んでおります。集中改革プランも検討中でございますので、今、連動して作業を進めておりますので、その時点で、近い時期に議会のほうへもご説明、ご報告をさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくご理解をお願いしたいと思います。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）合併協議会が作成した財政シミュレーションと、私どものほうでつくったシミュレーションとの大きな誤差ということの、原因は何かということでございますけれども、合併協議会が作成いたしました財政シミュレーションにつきましては、合併して効率化できたということ想定して、最終的に22年度にはこうなるということも加味しておるわけでございます。ところが、私どもの今つくっている財政シミュレーションにつきましては、18年度の本予算をベースにした財政シミュレーションでございますので、

かなりの差が出るということでございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）あまりにも違いが大きいので、理解できないわけなんです。その財政シミュレーション、合併に出したこの財政シミュレーションというのは、やはり合併がよいと、合併をすれば財政が健全化に向かうんだということを計算に入れてというか、つくられているわけでしょう。違うんですか。そう答えていただいたらわかりやすいんです。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）議員おただしのおりでございまして、そのために、今、橋本市が行政改革に取り組み、集中改革プランを作成した上で、早期実現に向けてやっていくということを言っているわけでございます。その合併協議会が示したシミュレーションに近づこうとしとるわけでございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）課長、今の答弁では、とり方によったら、市民にうそを言うて合併に導いたということにもなりますよ、これ。いや、市長が指示して、職員がつくるというのはわからんでもないですよ。これは政治的に考えたらわからんでもないんですが、でなかったら、これ、数字が全然、最大で100億円も110億円も違ってくるんだというような話は。家庭に例えても、そんな、こんなことやってたら、もう破綻ですわな。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）議員が106億円の累積赤字と言いますのは、あくまで私どものつくった第1案の数字でございますけど、これ、先ほどからも何回も言うておるとおり、本予算をベースにした数字をもとにして、5年間をそのままですらどうなるかということをあらわしているわけでございます。最終的

に18年度決算を打った場合には、かなりの差が出てきます。で、改めて再度、今シミュレーションを再度見直して、ローリングして、毎年毎年つくり上げていくというのが、私どもの財政シミュレーションをつくっていく考え方でございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）かっかかっかしてくるばかりであれなんです、これ、これだけ多額の赤字が出るというのを、行政改革大綱あるいは何たらプランで、こんなんやっていけるんですか。理事おられますけど。あなた、こんなシミュレーションつくらせたんですか。

○議長（上田順康君）理事。

○理事（塚本 基君）私がつく寄せたというわけでもございせんけども、財政課、財政運営していくについて、その時点、その時点でシミュレーションを立てておくと、準備しておくというのが当然のことやろうというふうに思います。

今回の合併シミュレーションにつきましては、おしかりを受けるかもわかりませんが、まだ18年度決算が打ってない状態が一つ、それから、橋本市、高野口町の単独の予算組で、従来から継続して予想できるような範囲ではなしに、合併してすぐの予算であるというので、割と不確定要素が、こないに言うたら財政課長に怒られるかもわかりませんが、不確定要素が非常に高いという中での合併シミュレーションです。合併シミュレーション自体も、あくまでもシミュレーションですので、設定条件が違いますと非常に大きく狂ってきます。

先ほど来、財政課長、総務部長、いろいろ説明させていただきましたですけども、本市、旧橋本市での5年間の財政健全化計画についても、いろいろご意見いただいたことで、富



岡議員もご存じやというふうに認識しておるわけですけども、その時点の財政健全化計画よりも、まだ非常にアバウトであるというふうに我々認識しております。

18年度決算を打った段階で、新市としてのだいたい決算状況が歳入・歳出どれくらいになるかというのが、十分わかると思うんですけども、何もなしに行財政改革なり、集中改革プランをつくるというわけにはいきませんので、とりあえず、今でわかるというのは18年度予算、それから18年度決算見込みというふうなことでの各パターンについて、財政シミュレーションを財政課のほうでつくっていただいて、それによって、行革をどのようにしていくか、集中改革プラン、具体的な案の集中改革プランをどないようにしていくかというふうなことでございますので、あまり、こんなん言うたら怒られると思いますけど、あまりもうシビアにちょっと考えていただかなくてもいいのかなと。

ただ、行革する上では、なるほどそういうふうに進めていかんなんというふうになりますので、集中改革プランをそこへ盛り込んだ形で、またシミュレーション等々考えていきますし、それから毎年、国の状況も刻々変わってきますので、それによってまた手直しをかけて、ローリングしていかんなん部分も多々ありますので、今の段階ではそういうような状況ですということですので。

3案につきましては、15億円の累積が出ているというふうに言われておるんですけども、できるだけその3案に近づけた形で行財政改革を進めて、具体的な集中改革プランをつくっていきたいというふうに思って、今、進めておるところでございます。

以上です。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）びっくりするようなも

のつくってみたり、そんなん心配するなと言うてみたりね。平たく言えばやで。これはしかし、ほんま、こんなん市民聞いとったらびっくりするで、と思いますよ。こういう、もう聞いてはるんかな。だから本当に、もう繰り返しませんけどね。本当に大切な税金預かってやってますのでね、これはひとつしつかりお願いしまっせ。ほいで、あれですわ、もうちょっと言いたいのは、こういう状況に至らしめた、きょう、一般質問ですので、まだ事細かに財政難に至らしめた、僕は僕で思いあるんですわ。これは決算委員会でやりますので、お願いしときます。

それで、こういう財政、私に言わせれば突然な財政難ですね、これに至らしめた原因を徹底して解明するということと、これはだれの責任になるんですかね、これ。こういう状況を招いている責任。

○議長（上田順康君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）だれの責任かというご質問でございますけれども、旧市・旧町におきまして、それぞれ行政事情、それから財政事情の違う中で、それぞれ住民の要望にこたえるために事業を予算化して、その予算を議会においても十分慎重審議されて、議決してきていただいたというように私どもは思っておりますので、だれが責任かという質問に対してはお答えはできません。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）もうこの辺であれにします。けんかになつたらいかんので。まだ決算委員会では私もとことんというのか、この問題は追っかけてますので。そのことを申し上げて、次に進みます。

国道371号のバイパスの件でありますけれども、部長から答弁をいただいて、大分考慮いただいているようでありますけれども、例えば具体的に、御幸辻7町内から踏切を渡っ

て、この駅のほうに行く、ありますね。こういう市道。あるいは県道の上にならずと、県道と平行するような形で市道があるわけです。それから、うんと南側に里道、里道だと思わんでもすけれども、ありますよね。今、部長の答弁で25mという4車線道路、歩道も入れればね。こういうものがどーんと東西に、失礼、南北に走るわけですね。このことによって、今まで隣の家まで簡単に行けたというかな、こういう日常生活が遮断される。こういう可能性あります。非常に心配もされているわけです。

それから、現在、御幸辻駅の西側、駅裏側からの結構、6月議会でも取り上げましたけれども、最低でも300人前後の方が、この西裏側を利用されているんですけれども、こういう皆さん方が、国道371号バイパスがつくことによって、いろんな意味の遮断が起こるといふかな、非常に不便になる。こういう点について、ぜひその皆さんの不安を解消していただくといふかな、十分に地域住民の皆さんのご意見を聞いていただいて、計画等も、大きな計画はできていると思うんですが、つくっていただきたいと。要望しておきます。

ただ一点、質問だけね。これ、いつ頃関係住民の皆さんへの説明会が開かれるのか、わかれば。そのときにどんどん皆さんに直接言ってもらえばいいので、お願いします。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）県道山田御幸辻停車場線から北側への工事につきましては、平成19年度から一部分工事着手するというところで、県のほうから聞いてございます。それで、いつどこでという説明会の段取り等については、聞いてございませんので、一度確認して、またご報告させていただきます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）よろしく願いをして

おきます。

次に、3項目めの、高野口出張所の存続について再質問を行います。当高野口支部が実施をしました「まちづくりアンケート」の結果を紹介いたします。約2,000世帯にアンケートを配布をして、118名の方から回答をいただいたというふうに聞いております。それで、「合併をしてよくなった」と、こう回答された方は一人もおられませんでした。「合併をして悪くなった」と、この回答をされた方は70人です。「まだわからない」と、この回答は52人でありました。

さて、本題の高野口出張所の存続を求める市民の声については、こういうふうに書かれております。「合併をして役場がなくなり、火が消えたよう」「合併をして、出張所までなくすというのは、他の市で聞いたことがない」

「来年から出張所がなくなると聞いているが、車に乗れない者には困ります。出張所を残してください。高齢者の願いです」こういった意見など、多くの出張所存続を求める市民に対して、再度答弁を求めます。

○議長（上田順康君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）高野口出張所と出張所の跡の取り扱いについては、最初に答弁いたしましたとおり、合併協議会で決定しておりますので、その方向で進んでまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（上田順康君）23番 富岡君。

○23番（富岡清彦君）あれですよ、合併協議会で決めたことを全部守っていくと。これは悪いことじゃないんでな。その場合、政治というものが要らんわな。政治の世界、あんな知事選挙でもありますやろ。新幹線を、駅をつくるというのと、それをもうやめるというので選挙しましてね。工事始めてました新幹線、とめようとしてますやろ。これが政治なんです。政治の世界なんです。市民の声に

こたえて政治をやるということは悪いことじゃない。合併協議会で決まったこと、全部守っていかならんのやと、これもそら、先まで見通して、なかなか決められないこともあるだろうし、やはり住民の声が大きな世論になった場合は、これはやはり、新市長がそのかじ取りをする、政治判断をするということで、僕はこれは別におかしいことじゃないというふうに思うんです。難しいテーマだというのは認識してますよ。

そこで、以前、紀見地区に市役所出張所という運動をやったときに、大阪狭山市と富田林市の出張所を視察に行ってきたんですわ。そのときに、人数少ないんですよ。出張所でははる人の人数が。現在、たしか高野口出張所には18名いてるので、財政も考慮しまして、これを3分の1程度の人数で、5人か、五、六人でしょうか、配置をして、今の出張所、ちょっと何仕事してるのか、僕認識不足ですが、不足ですが、いわば各部のエキスパートを配置して、わかりやすく言えば、福祉のことなら全部一人でわかります、市民に対応しましょう、教育委員会のことなら、管轄のことなら、全部対応しましょうと、こういうことをやってましたわ。狭山出張所でも富田林出張所でも。

ただし、なかなか配転って、何て言うんですか、職場替えのときにここへ行くのは嫌うって言うてましたわな。何十人分ものことを勉強せんとはいけませんので、そら大変だということでしたけれども、そこで、一つの提案なんですけれども、こういう、5人程度でいいと思うんです。立派な公民館もできるというので、その中に出張所という形で1室を使って、そして、ここで頑張った職員さんは管理職に昇格しましょうと。こういうふうな制度も取り入れて、ぜひ住民サービスの向上に生かしていただきたいと。

ちょっと戻るようですが、著しく行政サービスを低下させないという、そういう確認事項あるようですね。これについては、出張所を存続することで、私は十分対応できるんじゃないかというふうに思います。

ちょっと二、三人の職員にこの話してみたんですけどね、皆さん行きたくないというふうには言われました。そのことも申し上げておきますけれども、ぜひ存続について再考していただきたいんですが、市長に伺います。

○議長（上田順康君）富岡議員の持ち時間が2時10分までであります。簡潔に答弁を願います。

市長。

○市長（木下善之君）簡潔に答弁ということですが、先ほど部長から申したとおりでございます。

以上でございます。

○23番（富岡清彦君）終わります。

○議長（上田順康君）これをもって、23番 富岡君の一般質問は終わりました。